

令和4年度 施設分析シート

I 施設の概要		施設コード	S10-04-01		
施設名	荒川遊園				
所在地	西尾久六丁目35番11号				
部課名	子ども家庭部荒川遊園課				
施設の履歴	時期	建築費 (単位:千円)	財源内容 (単位:千円)		
			国・都	区債	一般財源
	建築	平成3年	5,052,575	—	—
	増改築①	平成6年	2,913,788	—	—
増改築②	令和4年	4,398,862	—	—	
併設施設					
竣工年月日	—		区職員	その他	
供用開始年月日	—		職員数	13人	委託業者
構造	—		階層	—	
面積	敷地面積		54,319 m ²		
	延床面積		— m ²		
設置目的・経緯	区内唯一の区立遊園地として、区内外の人々が楽しく利用できる施設を目指すとともに子育て支援施設の拠点とする				
関連部署	—				
根拠法令等 設置条例	都市公園法、荒川区立公園条例及び同条例施行規則				
駐車場の状況	114台	バリアフリー	●エレベーター	●トイレ	
駐輪場の状況	約100台	対応状況	●点字ブロック	●スロープ	



II 管理運営の状況

管理形態	直営	—	期間	—	から — まで	
事業内容	総面積54,319m ² (A地区(有料地区):31,466m ² 、B地区(プール):5,234m ² 、C地区(地下駐車場):14,141m ² 、D地区(荒川遊園拡張地):3,479m ²) ①遊園地の管理運営(遊戯施設、小型遊具、ふわふわドーム、わくわくハウス(わくわくパーク・売店)、もぐもぐハウス(売店)、一球さん号(売店)、動物広場ほか)②子どもプール管理運営③都市公園維持管理等					
対象者	—					
運営時間等	運営時間	午前9時～午後5時				
	休日	火曜日(火曜日が祝日の場合にはその翌日)				
施設基本データ等		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度(見込み)
	入園者数(人)	313,266	—	—	—	500,000
	子どもプール(人)	25,015	16,035	—	—	13,800
	地下駐車場(台)	28,962	16,800	13,723	12,451	33,000
	大型遊戯施設利用者数(人)	720,046	—	—	—	1,360,000
	入園料収入(千円)	28,370	—	—	—	88,000
	乗物券、小型遊具等収入(千円)	119,470	612	—	—	—
	フリーパス収入(千円)	—	—	—	—	259,000
	子どもプール収入(千円)	5,968	3,760	—	—	3,450
	地下駐車場収入(千円)	18,952	7,551	5,321	4,610	23,000
に指定 係等 管理 費理						
備考	約3年半の改修工事を経て、令和4年4月21日にリニューアルオープン。年間入園者数50万人を目指し、新型コロナウイルス感染拡大防止及び園内の安全確保のため、人数制限を行いながら運営。子どもプールについては、令和2、3年度は休止していたが、4年度については感染防止対策を行い、1日3回入替制により運営。					

III 財務諸表

(単位:千円)

行政コスト計算書	勘定科目	R2年度	R3年度	差額	勘定科目	R2年度	R3年度	差額			
	行政費用	給与関係費	49,987	46,861	▲ 3,126	地方税等	0	0	0		
貸借対照表	行政費用	物件費	85,639	151,983	66,344	国庫支出金	0	0	0		
	流動資産	行政費用	維持補修費	20,803	62,107	41,304	都支出金	1,847	0	▲ 1,847	
		流動資産	行政費用	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	固定資産	行政費用	行政費用	補助費等	145	200	55	使用料及び手数料	5,841	6,183	342
		有形固定資産	行政費用	減価償却費	87,217	161,478	74,261	その他	677	854	177
			有形固定資産	行政費用	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	8,365	7,037
		無形固定資産	行政費用	賞与・退職給与引当金繰入額	12,180	6,190	▲ 5,990	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 491,375	▲ 895,935	▲ 404,560
			無形固定資産	行政費用	その他行政費用	243,769	474,153	230,384	金融収支差額(d)	0	0
		建設仮勘定	行政費用	行政費用合計(b)	499,740	902,972	403,232	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 491,375	▲ 895,935	▲ 404,560
			建設仮勘定	特別費用(g)	127,238	0	▲ 127,238	特別収入(f)	0	22,074	22,074
その他の固定資産		建設仮勘定	特別収支差額(f)-(g)=(h)	▲ 127,238	22,074	149,312	当期収支差額(e)+(h)	▲ 618,613	▲ 873,861	▲ 255,248	
		その他の固定資産	流動負債	収入未済	0	0	0	還付未済金	0	0	0
資産の部合計		流動負債	流動負債	不納欠損引当金	0	0	0	特別区債	0	0	0
	流動負債	流動負債	その他の流動資産	0	0	0	賞与引当金	2,732	2,177	▲ 555	
負債及び正味財産の部合計	固定負債	固定負債	有形固定資産	5,497,416	7,414,927	1,917,511	その他の流動負債	0	0	0	
	固定負債	固定負債	土地	3,492,523	3,492,523	0	固定負債	23,673	24,981	1,308	
正味財産	固定負債	固定負債	建物	3,251,152	4,479,243	1,228,091	特別区債	0	0	0	
	固定負債	固定負債	建物減価償却累計額	▲ 2,394,809	▲ 2,462,908	▲ 68,099	退職給与引当金	23,673	24,981	1,308	
負債及び正味財産の部合計	固定負債	固定負債	工作物等	2,743,001	3,570,020	827,019	その他の固定負債	0	0	0	
	固定負債	固定負債	工作物等減価償却累計額	▲ 1,594,451	▲ 1,663,950	▲ 69,499	負債の部合計	26,405	27,158	753	
正味財産	正味財産	正味財産	無形固定資産	0	0	0	正味財産	6,253,667	7,420,359	1,166,692	
	正味財産	正味財産	建設仮勘定	777,925	22,500	▲ 755,425	正味財産の部合計	6,253,667	7,420,359	1,166,692	
負債及び正味財産の部合計	負債及び正味財産の部合計	負債及び正味財産の部合計	その他の固定資産	4,731	10,090	5,359	負債及び正味財産の部合計	6,280,072	7,447,517	1,167,445	
	負債及び正味財産の部合計	負債及び正味財産の部合計	資産の部合計	6,280,072	7,447,517	1,167,445	負債及び正味財産の部合計	6,280,072	7,447,517	1,167,445	
備考	物件費は、遊戯施設等運営準備業務委託、厨房機器等の初度調弁等の改修に要した費用であり、維持補修費は、入口ゲート整備等改修工事に要した費用である。またその他行政費用は、改修に伴う園路整備工事に要した費用である。										

	指標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度(見込み)
財務指標・評価指標等	有形固定資産減価償却率(%)	80	81	67	51.3	
	施設1㎡当たりのコスト(円)	10,304	7,117	9,829	17,761	
	来園者1人当たりのコスト(円)	1,672	-	-	-	
	開園1日当たりコスト(円)	1,642,179	-	-	-	
	受益者負担比率(%)	37	3	1	0.7	
備考	平成30年12月から休園し改修工事を行っているため、令和元年度から3年度までは使用料収入がほとんどない一方で、工事費の支出や園内の維持管理費用が発生。令和4年4月21日にリニューアルオープン。					

IV 施設運営の方向性(所管の考え方)

計画の有無	● 無 ○ 有 (計画名:)					
目標指標	指標名・単位	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度(見込み)
	年間利用者数	目標値 420,000	-	-	-	500,000
		実績値 313,266	-	-	-	-
施設運営の方向性	○ 転用・多目的化 ○ 民営化 ○ 他施設との統合 ○ 廃止 ● 現状維持 ○ その他()					
管理形態の変更の推移	○ 有 (変更内容:) ● 無					
利用者・地域のニーズ	小さな子ども連れの子育て世代を中心に、安全に安心して楽しむことができる施設としてニーズが高い。					
現状・課題	○来園者に安全かつ安心して楽しんでいただけるよう、ハード、ソフト両面から安全第一の運営体制を確立することが重要である。 ○子どもから大人まで、幅広い世代の来園者が楽しく快適に過ごしていただけるよう、ホスピタリティ溢れるサービスの提供が求められている。 ○あらたな客層の取り込みや来園者のリピート率の向上など、中長期的な集客向上に向けた様々な取り組みを実施する必要がある。					
課題に対する現時点での考え	○各施設の安全点検の徹底をはじめ、区と各事業者間の連携を強化し、未然防止に向けた意識向上を図る。 ○運営スタッフ一人一人が荒川遊園の顔であるという自覚を持ち、自ら考え行動できるようレベルアップに努める。 ○区、各事業者それぞれが持てる能力を生かして様々なアイデアを出し合い、イベントの実施等、年間を通して荒川遊園の魅力を引き出す取り組みを継続的に実施していく。					
議会、利用者等からの意見	【令和3年度9月会議】荒川遊園ならではの集客策を講じ、魅力向上を 【令和2年度9月会議】荒川区最大の魅力発信拠点に 【平成30年度11月会議】①都電停留場からの園路をガス灯などを設置したレトロな雰囲気、②多様な媒体を活用した広報戦略を 【平成28年2月会議】夜間営業、イルミネーションを行うべき					

